

# 宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題（7）

－平成27年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－

松 田 勇 一

本稿では、宇都宮共和大学における平成27年度のコミュニケーション講座の授業報告と、本講座を受講した新生生に対して行った意識調査の結果を示した。授業報告では、まず、前年度のコミュニケーション講座の問題点を踏まえて変更した点を述べた。次に、コミュニケーション講座の目的、方法、各回の概要を示した。意識調査では、大学生活、今後の勉強、コミュニケーション、コミュニケーション講座に大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。結果を踏まえ、今後の初年次教育のあり方を考察した。

キーワード：初年次教育 コミュニケーション ポートフォリオ 社会人基礎力 意識調査

## 1 はじめに

本学では、平成21年度春学期より初年次教育「コミュニケーション講座」が開講され、松田（2010, 2011, 2012, 2013, 2014, 2015）はその授業報告と学生に対して行った意識調査の結果を示した。平成21年度は「書く」技術が中心のシラバスであったが、平成22年度は口頭コミュニケーションや人間関係構築を重視したシラバスに変更された。また、平成22年度からは、授業前学習が実施され、学生が集中して授業に臨めるよう工夫がなされた。さらに、平成22年度からは、成績評価においてポートフォリオ評価を導入し、学生の自己管理能力、自立学習を促す取り組みがなされた。平成23年度は、「話す」技能を身に付けさせる活動や、基本的なコミュニケーションスキルを養成する活動を多く取り入れた。平成24年度は、平成23年度同様、対人コミュニケーション能力を向上させるための活動を主とし、またポートフォリオの一つとして「学就シート」を追加した。「学就シート」とは大学生活の過ごし方や就職に対する考え方等を、自己分析を通して学ぶワークシートである。平成25年度は、ポートフォリオの一つとして作文を追加した。平成26年度は、授業前学習の漢字ドリルを漢字テストに変更し、またグループによる課題発表を課した。

本稿では、平成27年度の授業内容を報告し、受講した学生を対象とした質問紙調査の結果を踏まえ、今後の授業改善の課題を提示することを目的とする。

## 2 授業概要

平成27年度春学期のコミュニケーション講座は、平成26年度と同様に口頭コミュニケ

ーションの養成に重点を置いたシラバスを基本にし、授業中のペア活動、グループ活動に加え、ポートフォリオ評価（週間日誌・作文）、「漢字・諺テスト」を実施した。また、松田（2015）が問題点として指摘したグループ活動とその評価については、平成27年度においては以下の点を学生に明示し、改善を加えた。

- (1) 発表はグループ単位で行うが、必ず全員が発表を行うこと。
- (2) 発表内容は、発表を行う者自らが収集した資料、素材を用いること。
- (3) グループ内で発表内容をまとめた者を明示すること。
- (4) 評価はグループ単位ではなく、発表した個人に対して行うこと。

以上の点を学生に明示することにより、学生一人一人が責任を持ち、真面目な学生が不利益を被ることがないように配慮した。

## 2.1 目的

平成27年度のコミュニケーション講座の目的は、以下の通りである。

- (1) 基本的な口頭コミュニケーション能力を習得する。
- (2) アカデミック・ライティング（レポート作成・E-Mailの書式）を習得する。
- (3) より多くの学生・教員と知り合い、交流を深める。
- (4) 「週間日誌」の作成を通して、自己管理能力、自立学習を身に付ける。
- (5) 「学就シート」の作成を通して、自己分析を行い、社会人基礎能力に関する意識を高める。
- (6) 「作文」を通して、基本的な書く能力を習得する。
- (7) 「漢字テスト」を実施し、基本的な漢字知識、また予習の習慣を身に付ける。
- (8) グループによる授業外活動を通じて、協同作業の大切さを学ぶ。

## 2.2 授業の方法

本講座の特徴は、全体の講義の流れを統括する主任教員の他、グループ活動の際に学生のグループを担当する複数の教員が授業に携わることである。また、クラス数は、新入生の数によって1か2となる。平成23年度は2クラス、平成24年度は1クラス、平成25年度は1クラス、平成26年度は1クラス、平成27年度は1クラスであった。平成27年度は、主任教員1名の他、グループ担当教員3名の計4名の教員が携わった。なお、受講者は新入生33名、上級生再履修者が6名であった。

授業では、学生を8つのグループに分け（各グループの学生は4名か5名）、各グループに担当教員を配し学生への指導、助言を行った（各教員は2グループを担当した）。なお、グループ活動の際には机、椅子を移動させ、グループ全員が向き合う形態やペア同士で向き合う形態とした。学生グループは、学年、出身高校、性別、国籍等を考慮して

編成し、学期中に2回再編成を行った。したがって、1学期中に3つのグループに属することになった。これは、より多くの学生及び教員と知り合うための措置である。

授業の具体的な流れは以下の通りである。

- (1) 出欠確認点呼
- (2) 漢字テスト実施（主任教員が問題を読み上げる。）
- (3) 漢字テスト回収（グループごとに回収し、担当教員が後日採点し返却。）
- (4) グループ担当教員にポートフォリオ（「週間日誌」・「学就シート」）を提出する。
- (5) 前回の授業の確認。前回の授業での振り返りシートで優れたものがある場合は、紹介する。
- (6) 当日の学習内容、タスクの提示。
- (7) グループに分かれて、タスクの実施。
- (8) クラス全体でタスクに対するフィードバック。
- (9) 授業振り返りシートを学生個々で作成。
- (10) 授業振り返りシートを主任教員に提出し、次週提出用の「学就シート」を受け取り、終了。

平成25年度までは、出欠確認前に漢字・諺ドリルを実施していたが、ドリルに集中しない学生が多いため、平成27年度は平成26年度同様テストとした。

授業終了前には、当日の授業を振り返るための「授業振り返りシート」を作成させ、主任教員に提出させた。平成27年度も「授業振り返りシート」を作成させる時間を5分～10分程度とし、授業について学生に深く考えさせた。また、「授業振り返りシート」で優秀なものは、評価点として成績に加点し、また翌週の授業において匿名で記述内容を紹介した。

「授業振り返りシート」提出後は、学生は課題である「学就シート」を受け取った。「学就シート」の主な内容は、「1, 2年生の過ごし方」、「学生力診断」、「自己管理ノート」、「課外活動の過ごし方」、「働くことについて」、「社会人基礎力診断」等である。このうち、自己分析のページを課題とし、ポートフォリオとして提出させた。

漢字テスト、授業振り返りシート、学就シートは、ポートフォリオとして学生個々に管理させた。平成27年度は、学生に2穴バインダーを配布し、それをポートフォリオとして提出させた。提出されたポートフォリオは、グループ担当教員が受け取り、1週間以内に当該週の添削を行い、適宜コメントを付して返却した。全15週分の「週間日誌」は、第1回目の授業において、ポートフォリオを作成するバインダーと共に配布した。

## 2.3 成績評価

漢字テスト20%、ポートフォリオ40%、講義中の発言・態度10%、期末レポート30%とした。なお、欠席は総合点からマイナスするという形（-欠席回数×5点）で成績評価に取り入れた。単位取得の為には期末レポート提出は必須とし、単位認定は出席2/3以上の者を対象とした。また、ポートフォリオはグループ担当教員が添削、確認を行ったが、採点の基準は「全て記入している→2点」、「記入しているが未記入の部分がある→1点」、「殆ど記入していない、全く記入していない→0点」とした。期末レポートの確認、及び最終的な成績評価は、主任教員が一括して行った。

## 2.5 担当教員ミーティング

平成26年度同様、毎回の授業の前に担当教員4名によるミーティングを行った。ミーティングは、授業当日の昼休み時間中に行った。ミーティングでは、まず前回の授業での問題点、改善点などを述べ合った。次に、主任教員が当日の教案、教材を示し、グループ担当教員に指導のポイントなどを示した。

## 3 授業報告

以下、平成27年度春学期の「コミュニケーション講座」各回の主な内容を報告する。毎回の授業で実施した「出欠確認」、「漢字テスト」、「授業振り返りシート」は割愛する。

### 3.1 授業概要

#### 第1回 授業説明・同じ番号探し・母音トーク・サイレントトーク

- 教員紹介（教員各自が自己紹介。）
- 授業概要の説明（本科目の意義、成績評価、ポートフォリオ等について。）
- 「同じ番号探し」（同じ番号を持っている人2人を探す活動。）
- 「母音トーク」（3人一組になり母音だけで話す。）
- 「サイレントトーク」（3人一組で声を出さずに読唇で話す。）

#### 第2回 グループ編成（1）・自己紹介

- グループ発表（グループごとに円形に着席。）
- 「名前記憶ゲーム」（名前・好きな果物・血液型・誕生日を覚えて暗唱する。）
- 「コミュニケーション4原則会話」（アイコンタクト・傾き・相槌・微笑を足しながら会話を行う。）

#### 第3回 20の質問と1つの質問

- 「20の質問」（質問シート配布。グループの仲間に20の質問をする。）

○「1つの質問」(10の質問には無い質問を1つだけする。)

#### 第4回 効果的な伝達法 I (ワンウェイ・ツーウェイゲーム I)

- 「ワンウェイゲーム」(話し手が情報を伝える。聞き手は無言で情報を聞き取り、図形を描く。)
- 「ツーウェイゲーム」(話し手が情報を伝える。聞き手は質問をしながら情報を聞き取り、図形を描く。)
- 課題の提示(翌週の発表課題を提示し、グループで打ち合わせをさせる。)

#### 第5回 口頭発表 I (「私のお気に入りの場所」)

- 「私のお気に入りの場所」を紹介する。
  - ・パワーポイントを事前に作成し、それに沿って発表。
  - ・発表時間は1グループ5分。
  - ・必ず全員が発表を行う。
  - ・発表者以外は、発表評価表に基づき評価を行う。

#### 第6回 グループ編成 (2)・自己紹介・相槌の大切さ

- グループ替え
- ポートフォリオの整理
- 「3分間自己紹介」
- 「アイコンタクトゲーム」(目を合わせて自己紹介する。)
- 「相槌ゲーム」(聞き手は「へー」、「ほんとに?」、相手の言葉の反復で反応する。)

#### 第7回 正確な情報伝達法 (インフォメーション・ギャップ)

- 「インフォメーション・ギャップ」(話し手と聞き手になり、お互いの情報を交換し合い、タスクを遂行する。)

#### 第8回 協働の大切さ I (商店街の地図作り)

- 「商店街の地図作り」(グループになり、個々人が持つ情報カードを基に、商店街の地図を作成する。)

#### 第9回 協働の大切さ II (9人の配置替え)

- 「9人の配置換えゲーム」(グループになり、個々人が持つ情報カードを基に、9人の登場人物の配置替えを考える。)
- 課題の提示(翌週の発表課題を提示し、グループで打ち合わせをさせる。)

#### 第10回 口頭発表Ⅱ（先輩・留学生インタビュー）

- グループでテーマを決め、それについて先輩と留学生にインタビューした結果を発表する。
- ・ パワーポイントを事前に作成し、それに沿って発表。
- ・ 発表時間は1グループ5分。
- ・ 必ず全員が発表を行う。
- ・ 発表者以外は、発表評価表に基づき評価を行う。

#### 第11回 グループ編成（3）・聞くということ（話再生ゲーム）

- 前週の発表について（評価結果発表。）
- グループ編成
- 「好き嫌い自己紹介」（3分間で自分の好き嫌いについて話す。）
- 「話再生ゲーム」（主任教員の朗読を聞き、ペアの片方が話を再生する。）

#### 第12回 共通項探し・価値観判断ゲーム

- 「共通項探し」（ペアになり、2人に共通する項目を多く挙げる。）
- 「価値観判断ゲーム」（グループ内で、ある物語の5人の登場人物の評価を行う。）

#### 第13回 集団で話し合う方法（「ウインター・サバイバル」）

- 「ウインター・サバイバル」（グループで雪山遭難時の対処法について話し合う。）

#### 第14回 レポートの書き方

- レポートの書き方について
- 課題レポートについて

#### 第15回 E-Mailの書き方

- 課題レポート回収
- SNSについて
- E-Mailの書き方について（タスクシート配布→グループで確認→解説）
- コミュニケーション講座についての授業アンケート

## 4 意識調査

### 4.1 調査概要

調査は、平成27年度春学期コミュニケーション講座の最終回において実施した。調査対象は新入生のみとし、日本人学生22名、留学生3名であった。

調査方法は、日本語で調査票を作成し、選択技法、5段階評定法、自由回答法で回答させた。調査票は、大きく、大学生活、勉強、コミュニケーション、コミュニケーション講座に関する部分に分かれている。なお、コミュニケーション講座に関する質問項目は、東北大学高等教育開発推進センター編（2007）等を参考にした。

## 4.2 結果と考察

以下、質問と共に集計結果を示す。

### 4.2.1 大学生活について

1) 宇都宮共和大学に、1週間にどのくらい来ますか？

表 1

	0～1日	2～3日	4～6日	毎日
日本人	0(0.0)	0(0.0)	20(91.0)	2(10.0)
留学生	0(0.0)	0(0.0)	3(100)	0(0.0)
全体	0(0.00)	4(11.8)	23(92.0)	2(8.0)

2) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主にどこにいますか。よくいる場所を3つ選んでください。

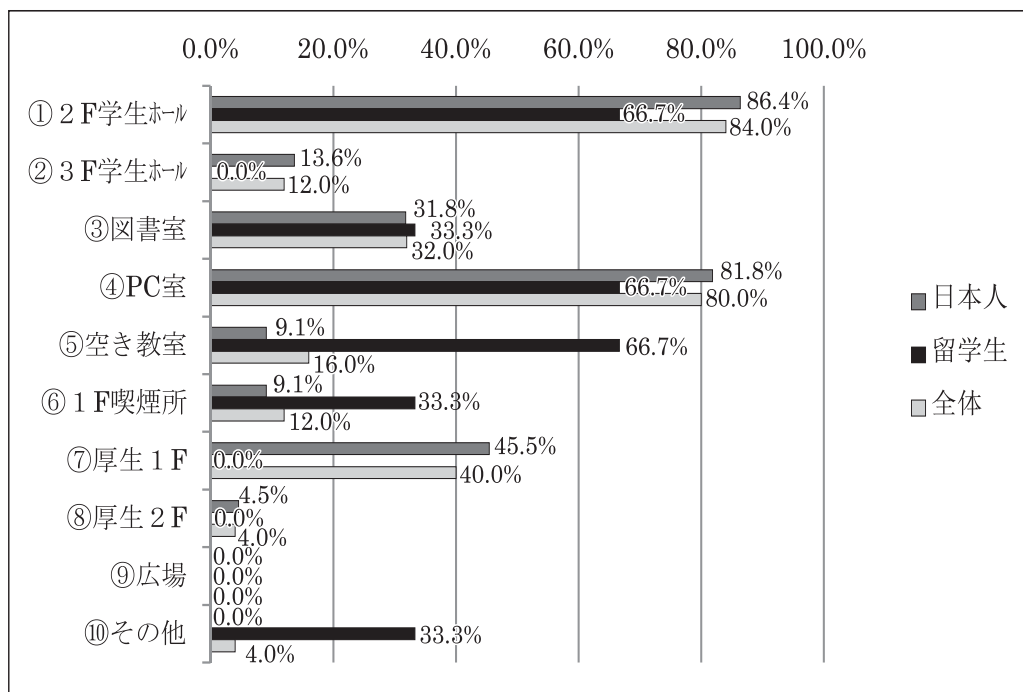


図 1

3) 宇都宮共和大学では、授業中以外は主に何をしていますか。よくしていることを3つ選んでください。

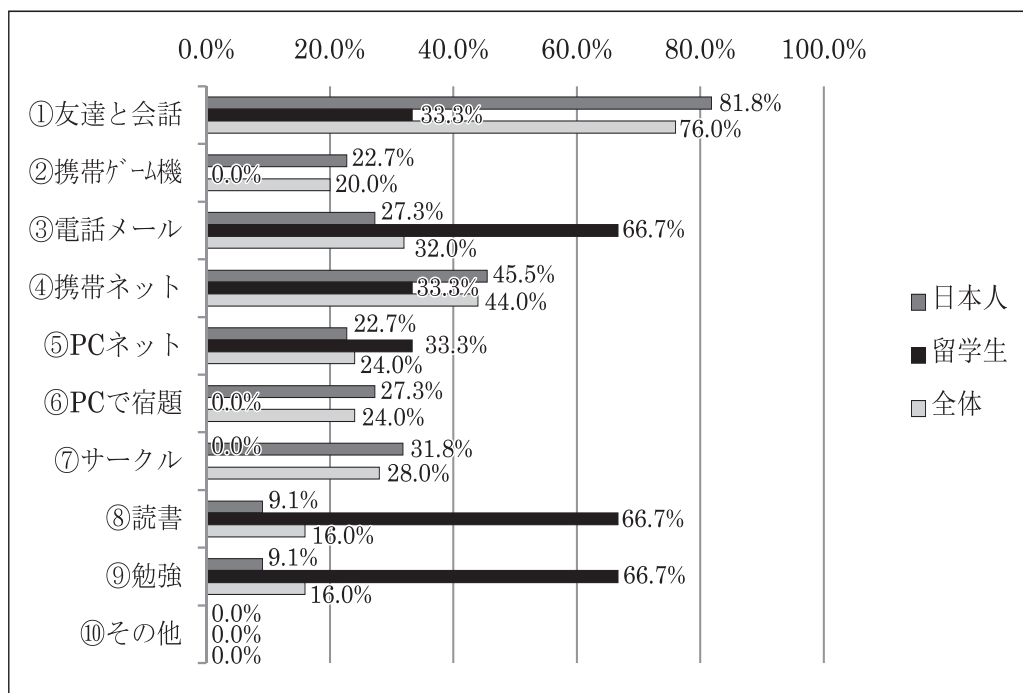


図2

4) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、楽しいと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

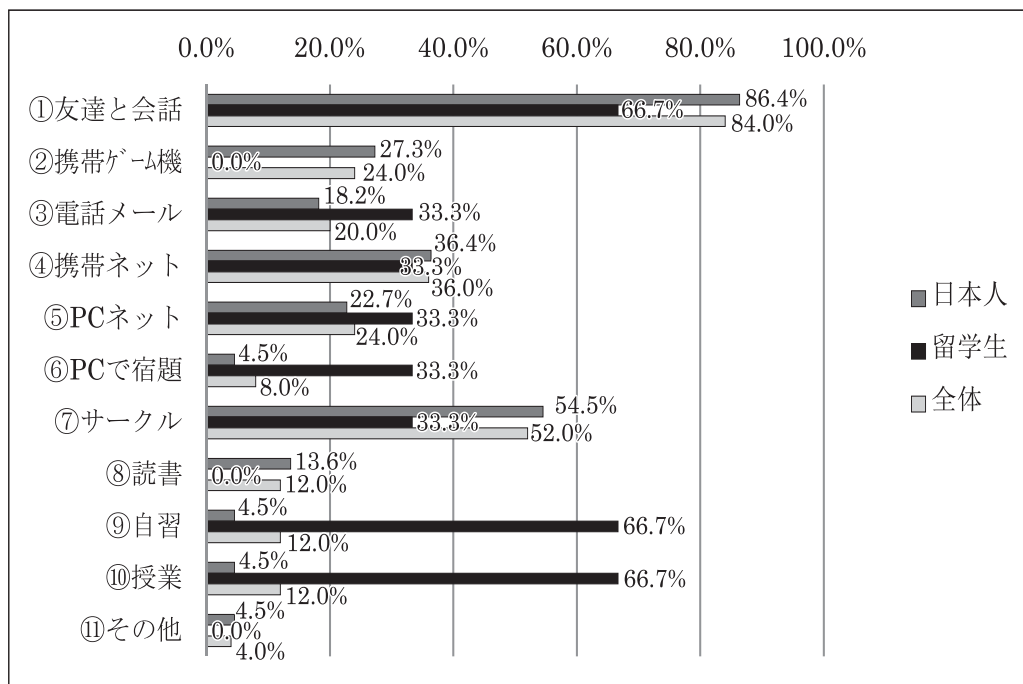


図3



5) あなたの今の生活の中で、重要だと思うことは何ですか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

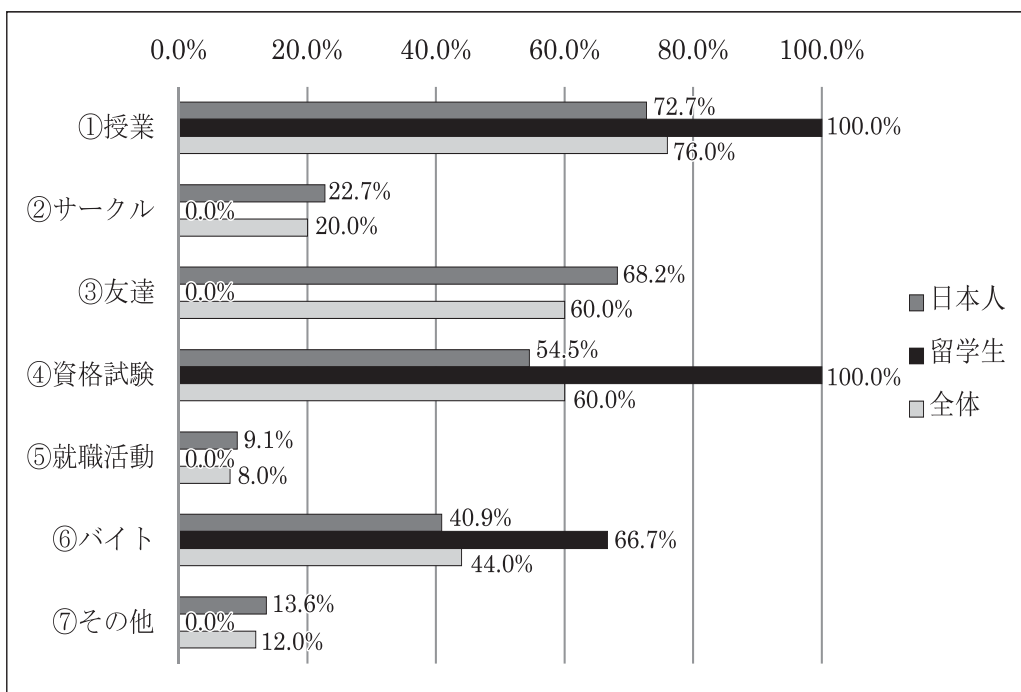


図 4

6) 宇都宮共和大学での学生生活の中で、困っていることがありますか。当てはまるもの全てに○をつけてください。

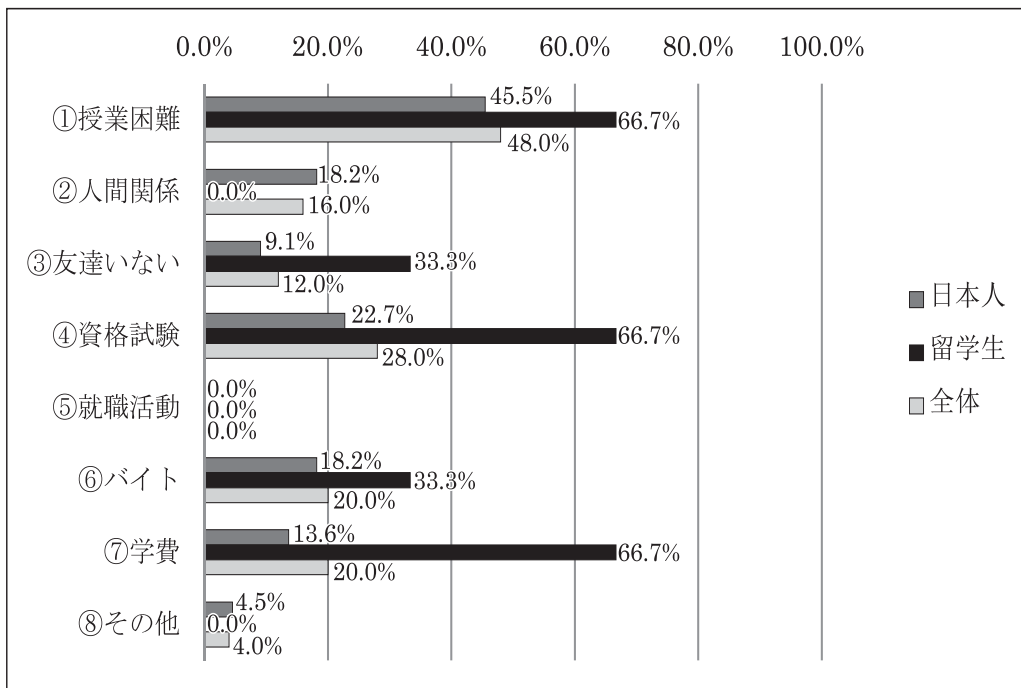


図 5

7) 宇都宮共和大学に入って、友達がどの位できましたか？

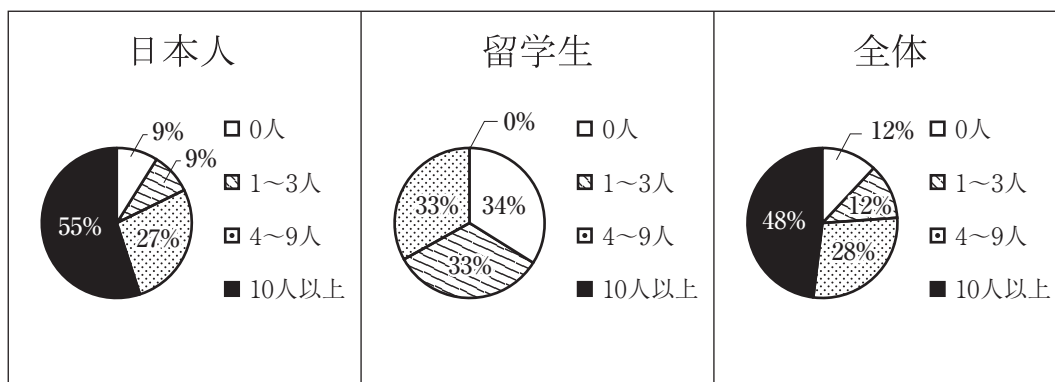


図6

8) 宇都宮共和大学の友達と1週間にどのくらい話をしますか？

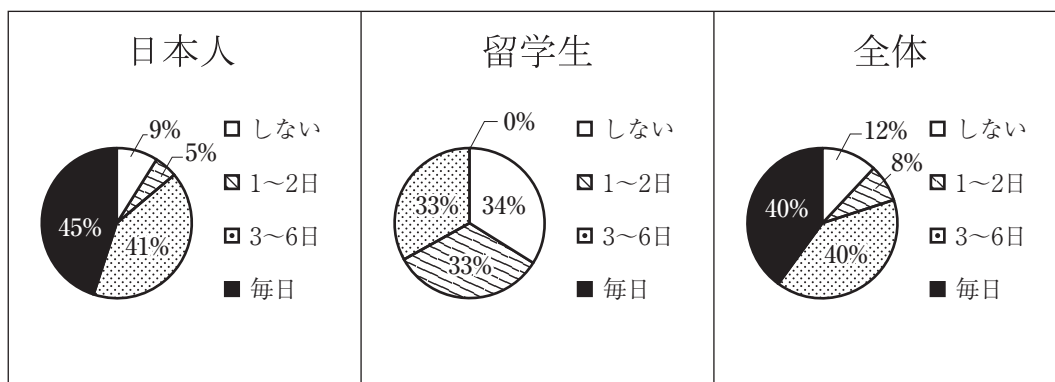


図7

<9) 10) は日本人学生への質問です>

9) 宇都宮共和大学に入って、留学生の友達がどの位できましたか？

10) 宇都宮共和大学の留学生と1週間にどのくらい話をしますか？

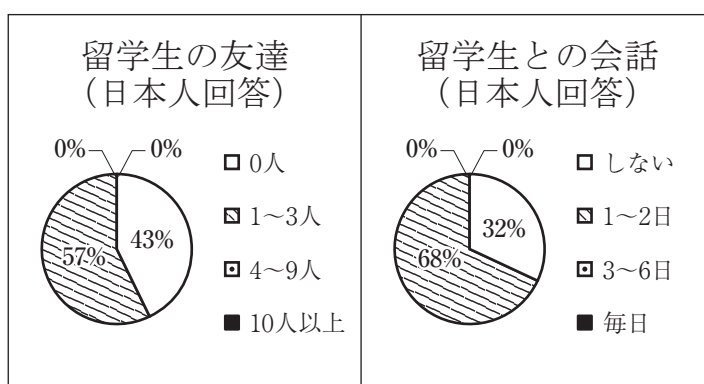


図8

< 11) 12) は留学生への質問です >

11) 宇都宮共和大学に入って、日本人の友達がどの位できましたか？

12) 宇都宮共和大学の日本人学生と1週間にどのくらい話をしますか？

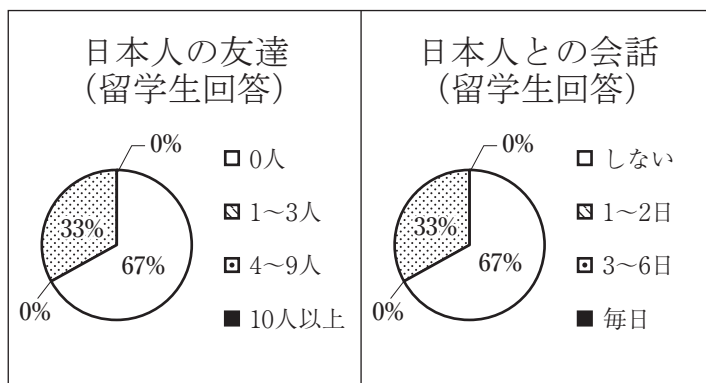


図9

質問1)は、通学の回数であるが、殆どの学生が週4~6日と回答した。質問2)は、学生の居場所であるが、全体では平成26年度と同様に「2F学生ホール」が最も多かった。次いで、全体では「PC室」が多かった。また、「図書室」の利用については、平成25年度は全体で23.1%、平成26年度は全体で14.7%、平成27年度は32.0%と持ち直している。平成26年度から図書館が利用しやすいように自習用の機の配備やラーニング commons の設置等の対策が取られているが、徐々にその効果が現れているのかもしれない。

質問3), 4)の結果から、新入生は学内では「友達と会って話すこと」が最も多く、同時に楽しいと感じていることが分かる。これは、例年同様の結果である。また「楽しいと思うこと」では「サークル」が全体でも5割を超えており、大学生活におけるサークル活動の重要性を示していると言える。

質問5)の結果から、例年同様、全体では「授業」、「友達付き合い」、「資格試験」に重要性を感じていることが分かる。また「バイト」に重要性を感じている者も多い。

質問6)の結果を見ると、「授業が難しい」と感じている学生が半数近いことが分かる。その他については、数値はあまり高くはなかった。

質問7), 8)の結果から、殆どの学生は本学に入学してから新たな友人ができたことが分かる。しかし、少数ながら友達ができていない日本人学生もおり、彼らへの対応が今後必要となろう。

質問9)~12)は、日本人は留学生の友人ができたかどうか、留学生は日本人の友人ができたかどうかを聞いたものである。日本人学生の43%が留学生の友人がいない。これは昨年の41%に近い数値である。また、日本人学生の中で留学生と話をしない者が32%おり、留学生との交友関係が築けていないことが分かる。今後も、日本人学生と留学生の交流をさらに推進していく必要がある。

次に大学生活に関する質問（①宇都宮共和大学に入って良かったと思う ②大学生活に満足している ③大学生活は楽しい ④大学生活は役に立っている ⑤大学の施設・設備に満足している ⑥大学周辺の環境に満足している ⑦大学の授業に満足している ⑧大学の授業は楽しい ⑨大学の授業は役に立っている ⑩大学の授業は難しい ⑪教員の教え方や対応に満足している）の結果を示す。これらの質問については、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）により回答を得た。

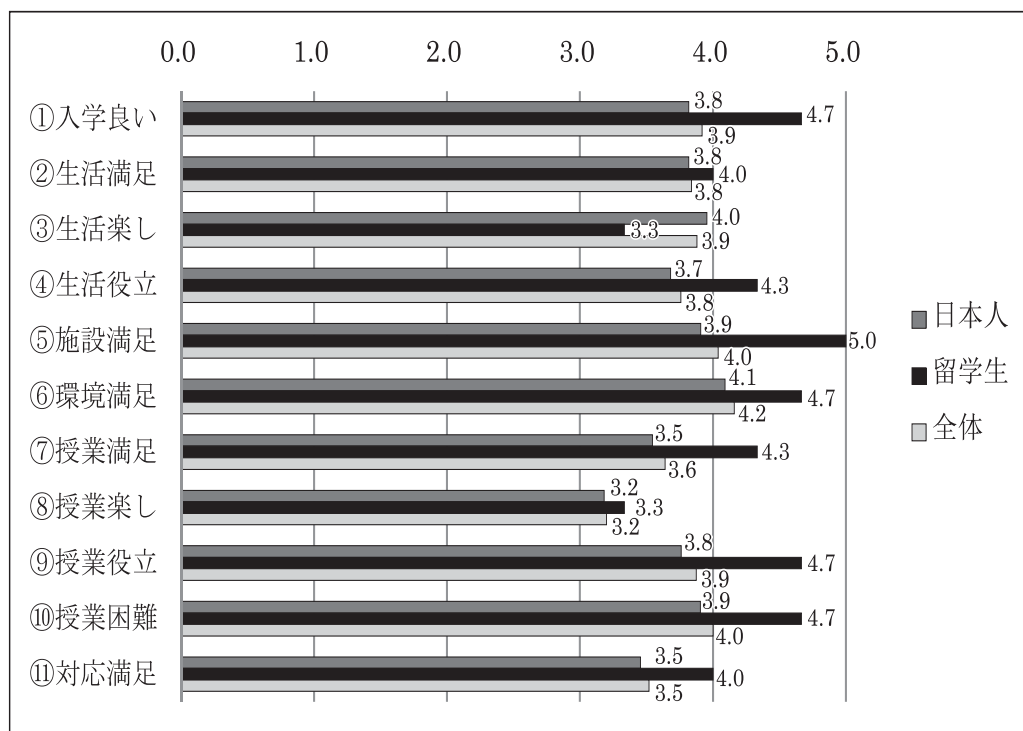


図10

まず、質問1の「入学して良かった」については、全体として3.9に達しており、概ね例年通りの肯定的な評価と捉えられる。また、「大学生活に満足している」は3.8、「大学生活が楽しい」は3.9となっており、満足度もそれなりに得られていると言えよう。しかしながら、「授業は楽しい」については3.2となっており、例年通り厳しい評価となった。さらに、「授業が難しい」についても例年同様高い数値となっている。今後も学生に分かりやすい講義を心がけ、学生が能動的に学べるようアクティブラーニングを取り入れる等の措置も必要であろう。

次に、大学生活、大学の施設、授業、教員の対応などについて、不満な点、意見等を回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述による。

**【自由記述】**

<日本人学生>

- ・屋外の直射日光辛い。夜、暗い。

- ・校内にアイスの自動販売機がほしい。エレベーターだけとても暑いのでエレベーター内も涼しくしてほしい。
- ・運動できる場所を増やしてほしい（サッカーとか）
- ・個人部屋の設置。
- ・スライドの授業ならノート時間を与えて欲しい。レポートの際にスライドが速くて書けない。マジックでの授業も薄くて書けないのに無理矢理書くのもどうかと。食堂のご飯とおかずの分量がおかしすぎる。先生方との接し方が男女平等じゃないのは何で？男性教員が特に（食堂が一番分かる）

#### 4.2.2 これからの勉強について

「これからの勉強について」は、10項目の質問（①自分の関心がある専門分野を集中的に勉強したい ②できるだけ様々な分野を広く勉強したい ③履修科目は、自分の興味関心で決めたい ④履修科目は、卒業要件を満たせば良い ⑤資格試験などに積極的に取り組みたい ⑥大学院進学に向けて勉強したい ⑦授業の単位を一つでも多く取りたい ⑧出来るだけ良い成績で単位を取りたい ⑨積極的に大学の施設などを利用していききたい ⑩積極的に先生に指導を受けたい）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

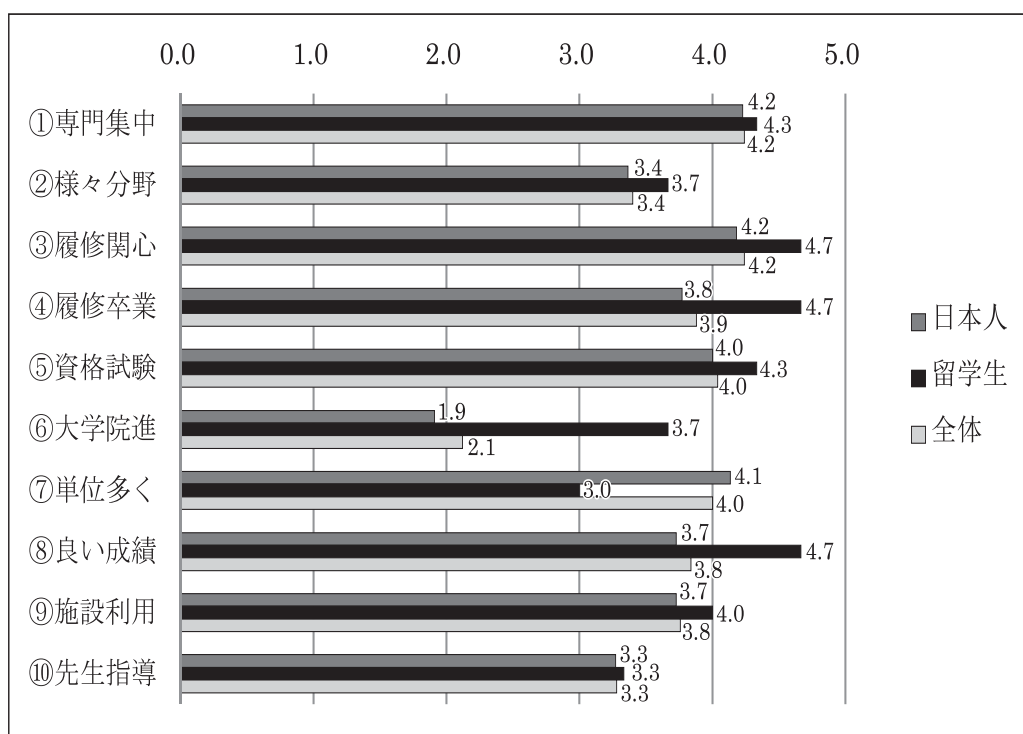


図11

まず、全体の結果を見ると、質問1、質問3、質問5、質問7が4.0以上となっている。例年同様に学業成績についての関心が高いことが分かる。全体で数値が低いものは、質問2、質問6、質問10である。質問6の大学院進学についての意識は、例年同様の結果である。質問2は様々な分野を勉強したいかという質問であるが、数値が3.2と低かったのは、平成27年度の新入生はより専門的な分野に興味関心があったからと考えられる。事実、質問1の数値は高かった。質問10の結果は、例年同様である。今後も、教員との距離感を縮めるべく努力が必要であろう。

#### 4.2.3 コミュニケーションについて

「コミュニケーション」については、10項目の質問（①いろいろな人と友達になりたいと思う ②先輩と親しくなりたいと思う ③留学生と親しくなりたいと思う（留学生は「日本人学生と親しくなりたいと思う」） ④先生と親しくなりたいと思う ⑤人と話したりするのが好きだ ⑥人前で話すのに自信がある ⑦誰とでもうまく付き合える自信がある ⑧もっとうまく人と話せるようになりたいと思う ⑨自信を持って人前で話せるようになりたいと思う ⑩自分のコミュニケーション能力は十分だと思う）を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

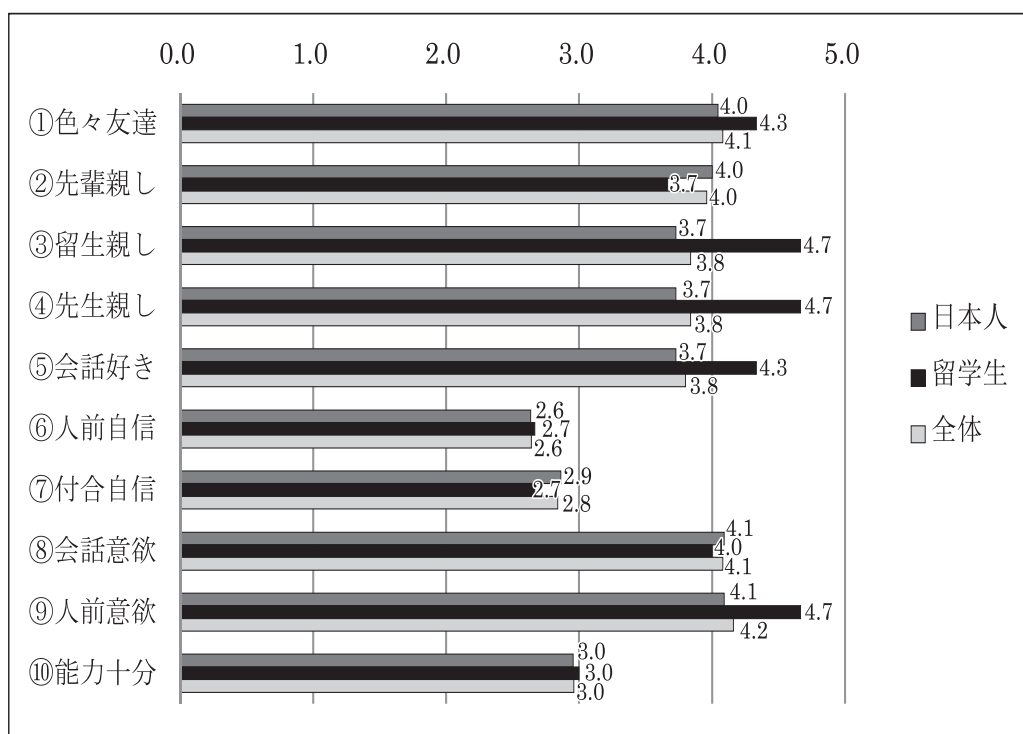


図12

まず、全体の結果を見ると、4.0を超えているものは質問1、質問2、質問8、質問9である。質問1、質問2は同学年や先輩とのコミュニケーションに対する意欲であり好ましい傾向と考えられる。また、質問8、質問9は口頭コミュニケーションに対する意欲であるが、これも比較的数値が高かった。一方、質問6、質問7は、口頭コミュニケーションに対する自信であるが、これは数値が低かった。この結果から、本学の学生の特徴として「たくさんの友達と上手に話したいが、話す自身がない」という所謂「人見知りほどコミュニケーションを欲している」点が挙げられる。

次に、自分のコミュニケーション能力で不十分だと思うことについて、回答してもらった結果を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

#### 【自由記述】

<日本人学生>

- ・会話が続かないこと。
- ・もっと落ち着いて話したい。
- ・人見知り。
- ・相手への気遣い。
- ・一つの話長く話すこと。
- ・知識。
- ・初めて話す人が相手だととにかく会話ができないこと。
- ・話しかけにくい人には絡もうとしない。
- ・話の内容が薄い。ネタがない。会話は長く続かない。
- ・知らない人にはあまり話しかけない。
- ・人前で自信を持って話すこと。
- ・人見知りで自分から話しかけることが苦手なところ。
- ・初対面の人に対して自分から話せる。
- ・話す能力。積極性など。

<留学生>

- ・人前で話す経験がそんなにない。
- ・人前で話すのに自信がありません。日本語がまだ下手です。
- ・日本語はまだ下手です。

#### 4.2.4 コミュニケーション講座について

コミュニケーション講座については、13項目の質問（①講座は楽しかった ②講座は役に立った ③講座を受けて良かった ④講座を通じて友人ができた ⑤講座を通じて話すのが上手になった ⑥講座を通じて自分自身について考えるようになった ⑦講座を通じてレポートの書き方が分かった ⑧全体講義とグループ活動が分けられていて良

かった ⑨全体講義は分かりやすかった ⑩グループ活動は楽しかった ⑪グループ活動で教員が入るのは良いと思う ⑫グループ活動は学生だけで良いと思う ⑬コミュニケーション講座は必要だと思う)を設置した。回答は、5段階評定法(1全然そう思わない, 2あまりそう思わない, 3どちらとも言えない, 4少しそう思う, 5とてもそう思う)によった。

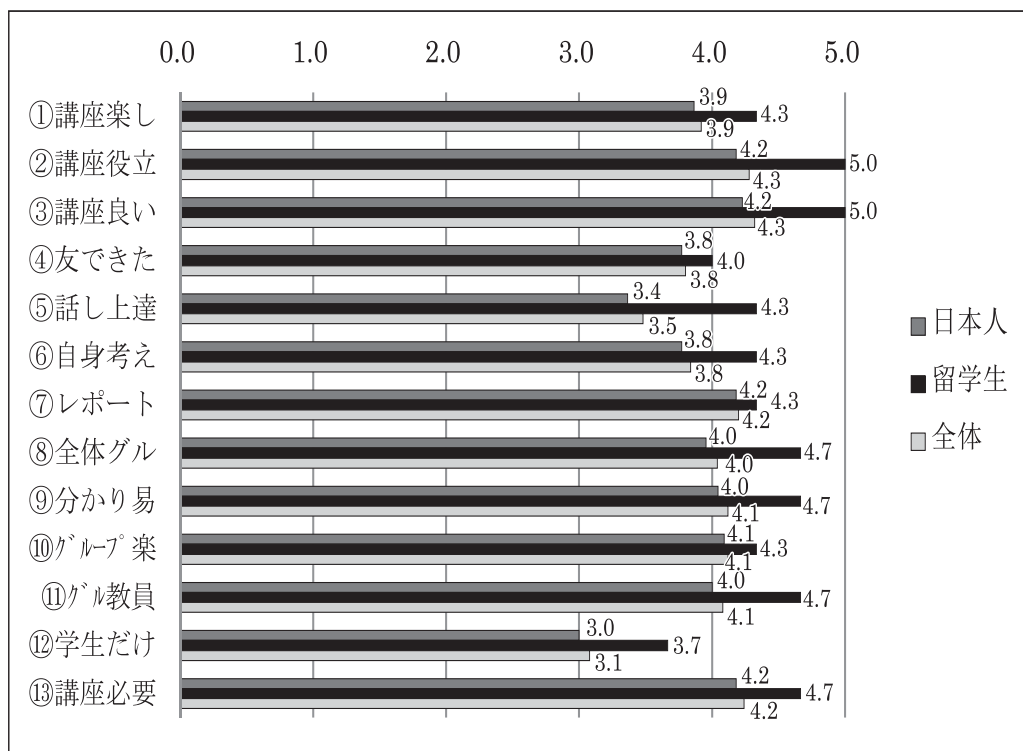


図13

まず、全体の結果で3.5に満たないものは、質問12であった。これは例年通りの結果である。その他の質問では回答が4.0を超えているものが多く、概ね好意的に評価されることが分かる。

次に、コミュニケーション講座についての要望や意見を示す。なお、回答方法は自由記述によった。

**【コミュニケーション講座について】**

<日本人学生>

- ・今のままでかなり良い。

**4.2.5 コミュニケーション講座各回の授業について**

コミュニケーション講座各回の授業については、25項目の質問((1)同じ番号探し,(2)母音トーク・サイレントトーク,(3)1回目のグループ分け,(4)名前記憶ゲーム,(5)4要素アイコンタクト・傾き・相槌・微笑を増やしていく会話,(6)20の質問と1つの質問,



(7) ワンウェイ・ツーウェイ活動, (8) お気に入りの場所準備, (9) お気に入りの場所発表, (10) 2回目のグループ分け, (11) アイコンタクトゲーム, (12) 相槌ゲーム, (13) インフォメーションギャップを用いた会話, (14) 商店街の地図作成, (15) 9人の配置換えゲーム, (16) インタビュー準備, (17) インタビュー発表, (18) 3回目のグループ分け, (19) 好き嫌い自己紹介, (20) 話再生ゲーム, (21) 共通項探しゲーム, (22) 価値観判断ゲーム, (23) ウインターサバイバル, (24) E-Mailの書き方, (25) レポートの書き方)を設置した。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない, 2あまりそう思わない, 3どちらとも言えない, 4少しそう思う, 5とてもそう思う）によった。

全体の結果の中で、数値が3.5未満となった項目は無かった。平成26年度はいくつかの項目で3.5未満が見られたが、改善された結果となった。また、グループ発表を2回行った（(8) (9), (16) (17)）が、これは平成26年度から内容を変更した。まず、(8) (9)の「お気に入りの場所」については、平成26年度はキャンパス内のお気に入りの場所であったが、宇都宮キャンパスは狭く発表内容が重複してしまったため、平成27年度はキャンパス内という限定を解除した。そのため発表内容はバラエティーに富んだものとなった。次に、(16) (17)の「先輩・留学生インタビュー」については、昨年度はインタビューの対象を「先輩」とだけ指示したため、一部の上級生だけにインタビューが集中し、発表内容が重複してしまった。平成27年度は、対象を先輩と留学生とし、且つ先輩の日本人学生はインタビューの重複を禁止した。なお、留学生は人数が少ないため複数回のインタビューを可とした。そのため、多くの上級生が回答者となり、また留学生の紹介にもつながり、発表内容に新鮮さが生まれた。

昨年度も述べたが、この発表活動は授業外でのグループ活動を促すためのものである。これは、授業外活動を通じてより現実的なコミュニケーションを身に付け、さらにグループ全員が協力することによる共同学習の効果を狙ったものである。また、昨年度の課題として、松田（2015）では①グループ内で統一のテーマを決めるが一人一人が課題を行うこと、②グループ内で課題をまとめた人物を知らせること、③採点は一人一人について行うこと、が挙げられた。発表はグループ単位であるので、メンバー一人一人の協力が必要であるが、中には協力しない者もいる。したがって、今年度は、ネタ集め等の取材、素材収集は基本的に個人とし、発表も代表者が行うのではなく、必ず全員が行う形にした。グループはあくまでも一つのパワーポイントのファイルを作成する集まりとした。また、発表を個々に分けたため、評価がしやすくなり、仮にグループ内で準備をしなかった者がいたとしても、真面目に取り組んだものが不利益を被ることは無くなった。

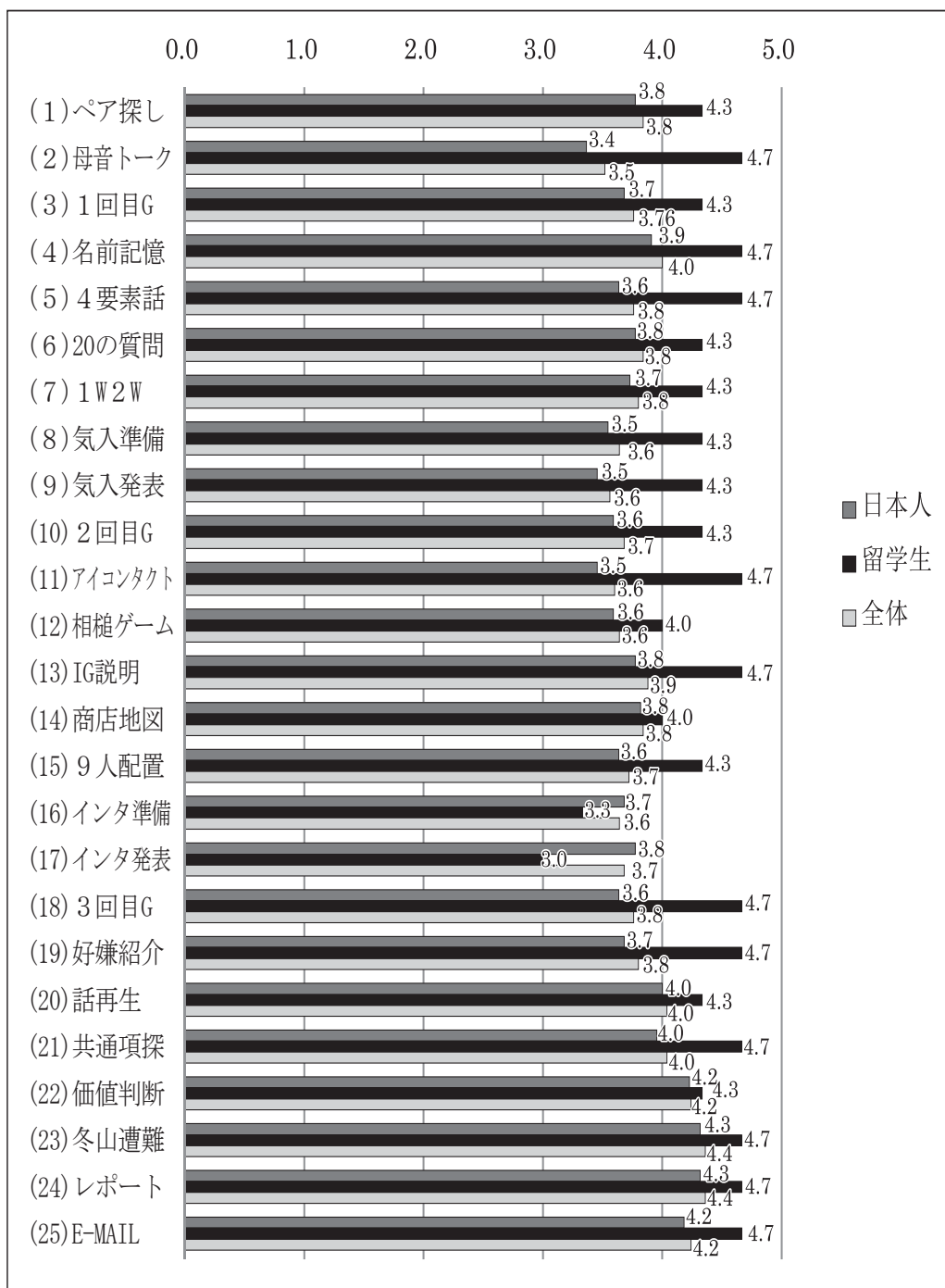


図14

#### 4.2.6 コミュニケーション講座定例のタスクについて

コミュニケーション講座定例のタスクとは、(1) 漢字テスト、(2) 授業振り返りシート、(3) 週間日誌、(4) 作文、(5) 学就シート、(6) ポートフォリオ作成、(7) グループでの話し合い、である。回答は、5段階評定法（1全然そう思わない、2あまりそう思わない、3どちらとも言えない、4少しそう思う、5とてもそう思う）によった。

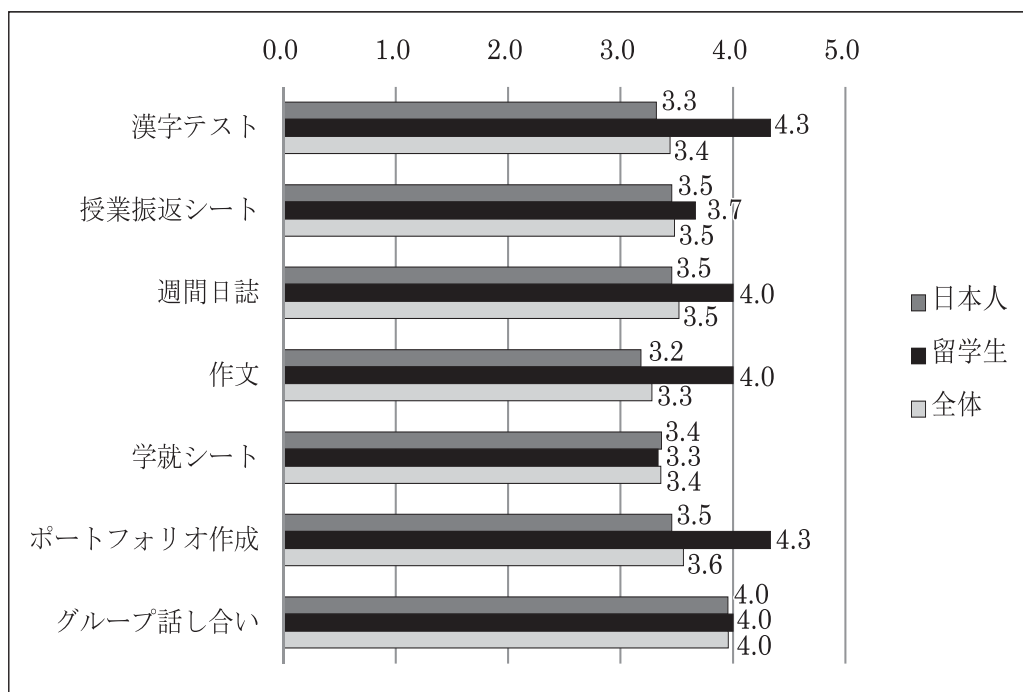


図15

この中で3.5を下回ったものは、漢字テスト、作文、学就シートであった。漢字試験については、平成26年度からの試みであるが、成績評価の一部として取り入れても学生の取り組みは悪かった。作文、学就シートについては、以下の自由記述にもある通り、例年学生の意見は大きく2つに分かれる。一つは「振り返りに役立つ」という肯定的なもの、もう一つは「面倒くさい」という否定的なものである。実際の日誌を見ると一目瞭然だが、真面目に取り組む学生とそうでない者の差が著しいことも特徴である。やる気のある者は真面目に取り組むさらに能力を伸ばすが、やる気の無い者は真面目に取り組まずさらに書けなくなる、という両極に分かれるのがポートフォリオの特徴と言えよう。

「週間日誌」、「作文」、「学就シート」について、自由記述での回答を得た。

**【週間日誌について】**

<日本人学生>

- ・その日何をしたのか思い出すことができるのでとてもいいと思う。
- ・少し書くことに困りました。
- ・一日一日の出来事を記録できてよかったです。
- ・1週間振り返ることができるからいいと思う。
- ・ボケ防止。
- ・何もない日は書く内容がなくて難しい。
- ・覚えていないと大変。

- ・書くのが大変だった。
- ・何もしてない日に何を書けばいいのか分からない。
- ・日記みたいで書きやすかった。
- ・普段はやらないと思うので良いと思う。
- ・思い出せない。
- ・自分の行動を記録に残せて良いと思った。
- ・1週間を振り返れて良いと思う。
- ・日誌をつけるいい機会だと思う。
- ・思い出すのが少し面倒くさかった。
- ・自分自身の行ってきた記録として残すことは良いと思う。
- ・何をやったかを思い出せるので良いと思う。
- ・1週間自分がどのように生活していたかを振り返ることができ良かったと思います。
- ・自分自身を振り返るきっかけとなった。自習の課題も見えてくる。
- ・一日一日の生活を振り返られていいと思う。

#### <留学生>

- ・良いと思う。一日だけ過ぎてても何したのかわかんない場合がある。これを見たら思い出す。
- ・役に立つと思います。
- ・良いと思います。

#### 【作文について】

##### <日本人学生>

- ・作文の書き方を学べた。
- ・書くたびにになにか新しいことをしようと工夫しようと思いました。
- ・各題でいろいろ考えさせられいろんな考えができた。
- ・難しいお題もあった。
- ・作文に慣れるためにも必要だと思う。
- ・最後の方のお題が難しすぎる。
- ・やる気が出ない。
- ・書くのが大変だった。
- ・様々な題目があり良かった。
- ・題が難しかった。
- ・書く能力もきたえられるのでいいと思う。
- ・難しい。
- ・表現力など能力向上に繋がったと思う。

- ・書きづらいこともあったが書くことは良いことだと思う。
- ・与えられたお題についてすぐ書けるようになった。やって良かった。
- ・どう書けばいいかわからないのもあって困難だった。
- ・文字は少ないが簡潔に書けるのが良い。
- ・とても良いと思う。
- ・作文はひたすら書くことで上達していくものだと思うので200字程度だったし良かったと思う。
- ・自分自身のことが良く分かり良い点や悪い点を見つけるきっかけとなった。
- ・書く能力が身につくと思うしあまり長くないので書きやすい。

<留学生>

- ・良いと思う。作文すこしでも書いてうまくなるから。
- ・役に立つと思います。
- ・書き方を練習して良かったと思います。

### 【学就シートについて】

<日本人学生>

- ・過去の日誌や作文を見るのが楽しい。
- ・その週を振り返り反省することができました。
- ・毎日毎日の出席確認や出来事など記録でき過去を振り返るのも重要でとても良いと思う。
- ・いいと思う。
- ・とにかく大変。
- ・大変だった。
- ・授業や出来事を記録できてよかった。
- ・自分自身を見つめたりすることができるので良いと思います。
- ・達成感があって良い。
- ・正直ダルいときもあったが練習だと思って書いていました。
- ・記録が残せていいと思う。
- ・今まで積み重ねてきたと少し実感がわいた。
- ・作成することによってこれから将来でも役に立つかもしれない。
- ・バインダーに資料を残しておくのとプリントを探したりするときにとっても便利だと思います。
- ・ポートフォリオはその1日の振り返り反省するいいきっかけになったと思うので良かったと思います。
- ・振り返ることができるので良いと思う。
- ・毎日書いていけばいいかもしれないが、何日か空いて書くと時間がかかってしまう。

<留学生>

- ・良いと思う。何でも書いてもいいから負担もないし文も書きやすくなる。
- ・役に立つと思います。
- ・必要と思います。

#### 4.2.7 ポートフォリオの自己採点

自分のポートフォリオについて100点満点で採点してもらったところ、次のような結果となった。

表2

	日本人	留学生	全体
平成 22 年度	60.8(22.6)	73.8(14.8)	63.5(21.7)
平成 23 年度	61.1(23.5)	70.7(19.8)	63.0(22.8)
平成 24 年度	73.2(13.8)	70.0(10.5)	73.6(13.1)
平成 25 年度	56.1(20.4)	96.7(33.7)	61.5(23.9)
平成 26 年度	57.0(22.0)	62.5(3.5)	57.3(21.4)
平成 27 年度	65.9(17.6)	81.7(12.6)	67.9(17.6)

(数値は平均値。括弧内は標準偏差。)

全体としては67.9であり、平成22年度から開始した自己評価の中では比較的高かった。毎年数値が上下するが、これは当該年度の学生の特徴の一つと考えても良いかもしれない。

#### 4.2.8 ポートフォリオを作成することについて

ポートフォリオを作成することについては、自由記述での回答を得た。

##### 【ポートフォリオ作成について】

<日本人学生>

- ・過去の日誌や作文を見るのが楽しい。
- ・その週を振り返り反省することができました。
- ・毎日毎日の出席確認や出来事など記録でき過去を振り返るのも重要でとても良いと思う。
- ・いいと思う。
- ・とにかく大変。
- ・大変だった。
- ・授業や出来事を記録できてよかった。
- ・自分自身を見つめたりすることができるので良いと思います。
- ・達成感があって良い。

- ・正直ダルいときもあったが練習だと思って書いていました。
- ・記録が残せていいと思う。
- ・今まで積み重ねてきたと少し実感がわいた。
- ・作成することによってこれから将来でも役に立つかもしれない。
- ・バインダーに資料を残しておくのとプリントを探したりするときにとっても便利だと思います。
- ・ポートフォリオはその1日の振り返り反省するいいきっかけになったと思うので良かったと思います。
- ・振り返ることができるので良いと思う。
- ・毎日書いていけばいいかもしれないが、何日か空いて書くと時間がかかってしまう。

<留学生>

- ・良いと思う。何でも書いてもいいから負担もないし文も書きやすくなる。
- ・役に立つと思います。
- ・必要と思います。

#### 4.2.9 ポートフォリオを担当教員にチェックしてもらうことについて

ポートフォリオの一部（週間日誌・学就シート）は、グループ担当教員が預かりコメントを付して返却した。このことについて、自由記述での回答を得た。

##### 【ポートフォリオを教員にチェックしてもらうこと】

<日本人学生>

- ・先生に見られるなら真面目に書こうと思えた。
- ・良いと思います。
- ・教員に見てもらえれば自分のことや口で言いづらいことも書いてもらえるから良いと思う。
- ・感想がかえってくるのが楽しみ。
- ・きちんと書いたものにコメントしてくれるのはうれしい。
- ・悪くないと思う。
- ・取りに行くのが面倒くさかった。
- ・採点してもらえてとても勉強になった。
- ・書かない人もいるかもしれないのでチェックすることは大事だと思う。
- ・先生との距離も縮まり良いと思った。
- ・自分のことを知ってもらうことが出来ると思うのでチェックしてもらうことは良いと思う。
- ・先生によって親身にコメントしてくれる先生が一方で、コメント内容が薄い先生もいた。一生懸命書いているので、もう少し長いコメントが欲しい。

- ・自分がしっかり書けているかそうでないのかが分かるから良かった。
- ・自分自身が書いたことに答えてくれるから良い。
- ・チェックしてもらうことは良いと思います。
- ・自分の振り返りを書いたものにコメントをしてもらえたことはすごく良かったです。また先生から作文の欄で書いたことに対してアドバイスがもらえたことがあって、それを実践してうまくいったということもあったのでこれからも続けて行って欲しいと思う。
- ・チェックするならあいまいな発言はやめて欲しい。
- ・先生とも会話ができていいと思う。しかし、毎回ポートフォリオを取りに行くのは少し面倒だと思ってしまう。

#### <留学生>

- ・良いと思う。ポートフォリオに先生の意見も書いてくれるし分からないこと聞いても教えてくれるから。
- ・先生と語らっている感じがした。
- ・違い所を直していろいろ問題を解答して良かったです。

教員のチェックについては、肯定的な意見が多かった。藤本（2013）も指摘しているが、教員のフィードバックを行うことは必要不可欠なことであり、それがなければ単なるファイルになってしまう。今後も、教員からのフィードバックは徹底していきたい。

#### 4.2.10 自分のポートフォリオを見て自分がどのように変化したと思うかについて

自分の変化については、自由記述での回答を得た。

##### 【ポートフォリオを見て自分の変化について】

#### <日本人学生>

- ・作文の文章能力が上がった気がする。
- ・作文の書き方が少しずつ変わっていました。
- ・常にメモする意識などが身についた。
- ・たくさん遊ぶようになった。
- ・サボりが見えてきた。
- ・作文の書くスピードが早くなった。
- ・多少は自己分析できるようになった。
- ・日記をつけられるようになったこと。
- ・最初よりは書く量が増えたと思う。
- ・スラスラ書けるようになった。
- ・最初よりはうまく書けるようになったと思います。



- ・毎日楽しそうだなと。
- ・作文などが書けるようになっていったと思う。
- ・作文が苦手だったが、今ではスムーズに書けるようになった。
- ・作文の文字数が増えた。週間日誌を詳しく書くようになったと思います。
- ・自分は1日を振り返るようになったので目標を立て努力することができるようになったと思います。
- ・直す所への努力や目標となる。
- ・少しずつ書く量も増えて自分なりに欠く力が身についていると思う。

#### <留学生>

- ・いろんなものを書いて書く前より書きやすくなった。
- ・書き方と考え方を变化したと思います。

自分の変化については、「作文の文章能力が上がった」、「メモする意識が身に付いた」等、書く技能の向上を意識できた学生が見られた。ポートフォリオが書く技能の向上に繋がったと考えられる。

#### 4.2.11 コミュニケーション講座に対する意見・要望

アンケートの最後に、コミュニケーション講座について、「こんな活動がしてみたい」、「こうすればもっと楽しくなる」というような意見、要望について自由記述で回答してもらった。

##### **【授業や学生生活で困っていること・意見・要望】**

#### <日本人学生>

- ・コミュニケーション講座は毎回楽しかった。
- ・班での話し合いがとても楽しかったです。
- ・2回目、3回目の授業で1人ずつ自己紹介をする。自己紹介をすればお互いの顔と名前が思えられると思うから。
- ・いまのままでも十分楽しい。
- ・留学生は日本語が通じないので発表は一人一人にしたほうがよい。
- ・体を動かす。
- ・外に出てみると良いと思う。
- ・屋外に出て活動してみたい。
- ・先輩との交流ができるような機会があったら楽しくなりそうだと思います。
- ・野外活動も取り入れればよりいっそうコミュニケーションが取れると思う。
- ・商店街の地図や配置換えなどのゲームはもっとあったほうが楽しいし、グループとも協力して取り組めると思う。

## 5 まとめと今後の課題

本稿では、宇都宮共和大学における平成27年度のコミュニケーション講座の授業報告と、本講座を受講した新入生に対して行った意識調査の結果を示した。

授業報告では、シラバスは平成26年度同様に「話す」技能を身に付けさせる活動を多く取り入れ、また授業開始時に漢字テストを実施したこと、授業外でのグループ課題とグループ発表を実施したことを示した。なお、グループ活動では全員が自分で作成した資料を発表し、その評価は個人に対して行うことを学生に明示した。

意識調査では、大学生活、今後の勉強、コミュニケーション、コミュニケーション講座に大別し、各項目に関する質問とその回答結果を示した。コミュニケーション講座については概ね肯定的な評価が得られた。

平成21年度から開始されたコミュニケーション講座であるが、来年度からは新カリキュラムの中で、読み書きの部分は「基礎ゼミ」へ、話す聞くの部分は「コミュニケーションスキル」へ発展的分割となる。初年次教育としての役割は、主に「基礎ゼミ」が担うことになるが、よりそれぞれの科目の役割に特化し、効果的な成果が求められよう。来年度以降は、「基礎ゼミ」の授業報告ができればと考えている。

### 【参考文献】

- エリザベス・バークレイ、パトリシア・クロス、クレア・メジャー（2009）『共同学習の技法 大学教育の手引き』ナカニシヤ出版
- 金子元久（2007）『大学の教育力 何を教え、学ぶか』筑摩書房
- 河合塾編（2010）『初年次教育でなぜ学生が成長するのか—全国大学調査から見えてきたこと—』東信堂
- 木野茂編著（2012）『大学を変える、学生を変える 学生FDガイドブック』ナカニシヤ出版
- 経済産業省編著（2010）『社会人基礎力 育成の手引き —日本の将来を託す若者を育てるために—』学校法人河合塾
- 清水亮・橋本勝編著（2012）『学生・職員と創る大学教育 大学を変えるFDとSDの新発想』ナカニシヤ出版
- ジョージ・ジェイコブズ、マイケル・パワー、ロー・ワン・イン（2005）『先生のためのアイデアブック —共同学習の基本原則とテクニック—』日本共同教育学会
- 全国ビジネス系大学教育会議編著（2010）『社会人基礎力の育成とビジネス系大学教育』学文社
- 土持ゲーリー法一（2011）『ポートフォリオが日本の大学を変える—ティーチング／ラーニング／アカデミック・ポートフォリオの活用—』東信堂
- 東北大学高等教育開発推進センター編（2007）『大学における初年次少人数教育と「学び

の転換』 東北大学出版会

日経就職ナビ編集部 (2011) 『大学1, 2年生の間にやっておくこと 学就BOOK 改定第2版』 日経HR

藤本元啓 (2013) 「ポートフォリオ」『初年次教育学の現状と未来』 世界思想社

増田四郎 (1966) 『大学でいかに学ぶか』 講談社

松田勇一 (2010) 「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題－平成21年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』 第11号

松田勇一 (2011) 「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(2)－平成22年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』 第12号

松田勇一 (2012) 「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(3)－平成23年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』 第13号

松田勇一 (2013) 「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(4)－平成24年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』 第14号

松田勇一 (2014) 「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(5)－平成25年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』 第15号

松田勇一 (2015) 「宇都宮共和大学における初年次教育の現状と課題(6)－平成26年度「コミュニケーション講座」授業報告と意識調査結果－」『宇都宮共和大学論叢』 第16号

安永悟 (2013) 「協同学習 授業づくりの基礎理論」『初年次教育学の現状と未来』 世界思想社

山田礼子監訳 (2007) 『初年次教育ハンドブック ー学生を「成功」に導くためにー』 丸善

謝辞：平成27年度春学期開講のコミュニケーション講座では、本学の吉田肇教授，田部井信芳教授，大石和博准教授には，円滑な授業運営・グループ活動のためご協力をいただき，また毎回の教師ミーティングの際にはご助言をいただきました。ここに心から感謝申し上げます。